

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成 26 年 8 月 6 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 京都大学農学研究科 地域環境科学専攻

職 名 教授

氏 名 天 野 洋

㊞

助成の種類	平成 26 年度 ・ 国際会議開催助成		
事業内容	第14回国際ダニ学会議		
開催期間	平成 26 年 7 月 14 日 ～ 平成 26 年 7 月 18 日		
開催場所	京都テルサ（京都市南区東九条下殿田町70番地）		
参加者	総数 311名	内訳 国外参加者 206名（一般158名、学生48名） 国内参加者 105名（一般85名、学生・20名）	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有（ ）		
会計報告	事業に要した経費総額	11,698,359 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 日本ダニ学会支援金、企業からの寄附、大会参加登録料など	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	大会会場費(京都テレサ)	3,230,360	1,000,000
	会議運営費	2,545,199	
運営補助要員人件費	632,000		
会議内飲食費	1,189,300		
印刷製本費	4,101,500		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 大会会場費の補助に使用させてもらうことができ、大変助かりました。ご支援によって、利便性の高い京都駅近辺の会場を期間を通して使用する事ができ、参加者からも高い評価を得ることが出来ました。貴財団からの入金が終わった後に、京都大学から寄附手続きの要請があり少し不便があったり、貴財団の本来の趣旨を活かすことができなかったのは少し残念でした。		

成果報告書および成果の概要は、財団に郵送(あるいは持参)するとともに、Excel・Wordファイルでメル送信して下さい。メール送信分の印鑑は不要です。

成果の概要／天野 洋（京都大学農学研究科）

第14回国際ダニ学会議は、貴財団をはじめとする諸機関のご支援によって無事に閉会する事が出来ました。京都駅からほど近い京都テresa（京都市南区東九条下殿田町70番地）に、国外からの206名を含む合計311名（内、68名が学生）の研究者が、予定された大会期間（7/14-18）に集まり日頃の成果を発表する場を与えられました。

正規の大会期間の前日（7/13）の夕刻に開かれた Welcome Party には150名を超える参加者がすでに会場を訪れ、それぞれに旧交を暖めました。大会は7/14午前のオープニングセレモニーに始まり、分類学から応用分野に、また医学・衛生学から農学・生物学まで広い範囲のダニ学における成果が発表されました（下図のプログラム参照）。期間中に20のシンポジウムセッションを含む300タイトル（ポスター発表も含む）が、40カ国から参集した研究者により披露され、参加者は最新の情報を共有する事が出来ました。

シンポジウムのタイトルは次の通り：
 (1-01) Behavior and sensory ecology（行動および感覚生態学）、
 (1-02) A genomics view of Plant Mites（植物寄生性ダニ類のゲノム科学）、
 (1-03) False spider mites and their impacts to global agriculture and trade（ヒメハダニが世界の農業と貿易に与える影響）、
 (1-04) Sustainable control of phytophagous mites（植物寄生性ダニ類の持続的防除）、
 (1-05) Perspectives in mite IPM in agricultural ecosystems under climate change（気候変動下における農生態系での総合的害虫管理の今後）、

(1-06) Prospects for control of Red Palm Mites ten years after its invasion to the Neotropics（亜熱帯地域に侵入後10年になるRed Palm Mitesの今後）、
 (1-07) Soil acarine biological control（土壌ダニ類の生物的防除）、
 (1-08) Biocontrol of multiple pests with the generalists predator *Amblyseius swirskii*（スワルスキーカブリダニによる複数害虫種の生物的防除）、
 (2-02) Acari-borne cutaneous allergy in Japan（日本におけるダニ由来の皮膚アレルギー症）、
 (2-03) Acari-borne infectious diseases in Far East（極東地域におけるダニ感染症）、
 (3-01): Mating and sex allocation strategies in mites（ダニ類の性比配置戦略）、
 (3-02) Behavioral ecology of mites（ダニの行動学）、
 (3-03) Interaction in communities of plant-inhabiting mites（植物上に生息するダニ類群集における生物間関係）、
 (3-04) Dispersal in Mites（ダニの

	TERESA Hall	ROOM 1	ROOM 2	ROOM 3	ROOM 4
14 MON	10:00-11:30	Opening Ceremony			
		12:45-14:00 LUNCH			
	14:00-17:00	Symposium #4-01	Symposium #1-07	Symposium #4-03	Symposium #3-01
15 TUE	17:00-18:30	17:25-18:25			
	Poster session (odd numbers)		Oral-general		
	9:00-9:30	9:00-9:30	9:00-9:30	9:00-9:30	9:00-9:30
16 WED	9:45-12:35	10:00-15:20	10:00-13:00	9:45-12:45	9:45-15:30
	Symposium #3-03	Symposium #1-04	Symposium #1-06 (joint w/ #1-03)	Symposium #5-01	Symposium #3-05
	14:00-16:00	12:45-14:00	14:00-16:00	14:00-16:00	14:00-16:00
17 THU	Oral-general		Oral-general	Oral-general	Symposium #3-05
	18:00-20:00 BANQUET Hotel Granvia Kyoto, Genji-no-ma (at the 3 rd floor)				
	9:00-9:30	9:00-9:30	9:00-9:30	9:00-9:30	9:00-9:30
18 FRI	9:45-11:15	10:00-13:00	10:00-13:00	9:45-12:45	9:45-17:45
	Symposium #1-01	Symposium #1-01	Symposium #1-06 (joint w/ #1-03)	Symposium #3-06	Symposium #1-02
	14:00-17:00	12:45-14:00	14:00-17:00	14:00-17:00	14:00-17:00
19 SAT	17:00-18:30	Poster session (even numbers)			Symposium #1-02
	12:45-14:00 LUNCH				
	14:00-15:50	14:00-17:00	14:00-17:00	14:00-17:00	14:00-17:55
20 SUN	14:00-15:50	14:00-17:00	14:00-17:00	14:00-17:00	14:00-17:55
	Symposium #2-02	Symposium #1-05	Symposium #3-04	Symposium #1-08	
	18:00-20:00	16:30-18:05			
21 MON	Associated event "My favorite Acari"				
	9:00-9:30	9:00-9:30	9:00-9:30	9:00-9:30	9:00-9:30
	9:45-11:15	Oral-general			9:45-11:00
22 TUE	11:30-13:30	Closing Ceremony			

分散)、(3-05) Mites under the sun: how radiant heat, visible light, and ultraviolet affect mite physiology, life history and community ecology? (太陽の下のダニ：熱や可視光、紫外線がダニの生理や生存、群集にどう影響するか?)、(3-06) Pathogens and other microbial associations of mites and ticks (病原菌とダニ)、(4-01) Acari descriptive taxonomy: General and additional requirements (ダニ類の記載分類学：標準的な分類基準)、(4-02) Mite and invertebrate symbiosis (ダニと無脊椎動物の共生)、(4-03) Ecology and Evolution of soil mites in extreme and special habitats (究極的な生息域を持つダニ類の生態と進化)、(5-01) Recent advances in Acarology in East and South East Asia (東アジアや東南アジアにおける最新のダニ学)。

他の研究分野でも同様であるかと思いますが、若手研究者や大学院生の研究は分子レベルの仕事に偏る傾向はダニ学でも顕著で、これら分野のシンポジウムセッション数や発表演題数は他を圧していました。一方で、基盤研究として重要な分類学や系統学、体内構造学などは一昔前に比較して、研究者数が随分減ったと感じられました。中でも、医ダニ学に携わる研究者による発表が急激に減少した事は、近年の新興感染症の増加とその重要なベクターであるマダニ類研究者層の薄さのアンバランスが、近々にも社会を大きな不安に包み込む可能性を示唆するものとして不気味に感じられました。一方で、重要な農業害虫の防除手段として 20 数年前から開発されてきた天敵カブリダニの研究は発表数も多く、害虫防除手段としてのみならず行動学的な研究材料としても重宝がられている事が確認できました。社会が求める持続性技術・環境にやさしい技術として、産業的にも新規に定着した研究成果の 1 例になっているようです。

大会を通して、女性研究者の比率の高さが目に付きました。国外諸国における生物に関連する研究者に占める女性の比率が高い事は周知の事実ですが、本会議への国内参加者内における女性比率も大変高く、自然科学分野とは言え研究者として職を獲得された女性ダニ研究者が多くいる事も驚きでした。

さて、研究内容からは外れますが、大会二日目 (7/15) には公式夕食会がホテルグランビアで持たれ、日本の伝統芸能の紹介などもあり国外の参加者には特に好評でした。また、大会期間は祇園祭りの前祭期間に当たり、宵山や山鉦巡行を観る機会にも恵まれ、これらの大会外イベントは国外のみならず国内参加者からも好評でした。日本の情報が伝わっていない国々から参加された研究者や同伴者の中には、震災と原発事故からの復興状況も含めて来日に不安を抱えていた方々もいたと、会話の中で知りました。その意味からも、今大会を予定通り日本の地で開催された事が大きな意味を持っていたと、大会事務局一同も痛感した次第です。

第 14 回大会は予定通り 7/18 日のクロージングセレモニー (2018 年に次回大会がトルコで開催される事が決定) を持って成功裡に閉会されました。大会事務局の大きな作業として、これからプロシーディングの発行が残っています。これにも相応の支出が伴いますが、貴財団からの支援に関しては申請書でも書いたように、会場費の一部に全額

宛てる事としていましたので、上記発刊を終えた後の最終経理を待たず、ここに報告書を提出させて頂く事としました。重ね重ね、貴財団からのご支援を感謝申し上げます。最後に、オープニングセレモニー時に撮影した集合写真(大会参加者の一部となります)を添えて報告書を終わりたいと思います。

